



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑應答. 地球 1929, 12(4): 314-314

ISSUE DATE:

1929-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183662>

RIGHT:

氏が報ぜられて居る様に、浮石流とする方が正しいことが判明した故、泥流を浮石流と訂正する。即ちこの浮石流は一度抛出せられた浮石が多量に堆積し山崩れの如く流下したものであつて、火口壁を乗り越えて流出したと考へたのは誤りである。

尙該火山破裂に關しての既刊報告類の主なもの参考までに記載する。(笹倉、吉澤記)

一、胸ヶ岳噴火(國富技師)

二、胸ヶ岳爆發調査概況(根本廣紀)

以上氣象要覽第四十五卷第五百五十六號(七月)

一、胸ヶ岳火山の噴火

(多田文男、坪井忠二、岸上冬彦、高橋龍太郎、津屋弘達、中田金市)

東洋學藝雜誌第四十五卷第五百五十六號(八月)

一、岩石礦物礦床學雜誌第二卷第三號(九月)

## 質疑應答

【問】ドネーブル河下流の港。

【答】ドネーブル河は歐露に於てヴォルガ河につぐ大河にして全長二千百軒途中に淺瀬ありて上下兩流に分つ、上は千七百軒下は三百軒、淺瀬の長は九十軒に達す、この間船舶不通であるから下流から上流へゆけない、そこで近頃運河計劃がある。

下流三百軒は平原を流れ、水は濁らずして黒海に入る、こ

の下流の頂點はサポロジエで、河口はウクライナの貿易港ヘルソンである、冬期結氷するから航行休止すれども、夏期の航運は盛である、サ市からヘルソンまで下航二十三時間、上航二十九時間、毎日定期船がでる。船賃一人八留である。

サポロジエはもとアレキサンドロフスクといつたが、これは一七三八年の創立である、その以前はサポロジイ人の居住地でサポロジエ、カザツク軍の共有財産地であつた、毎年新年に際して、隊長を選擧したる上抽籤にて土地の分配を定め、唯一箇年使用しうることとし、自己の所有とすることを許さなかつた、屯田制の地であつたが、ヒーター大帝の時露國に征服されてしまひ、沿岸地方は一面の農地で、大地主の所有地になつたが、革命後全部國有となつて、大地主は追はれ、その家屋も國有化して、村役場、農民館、學校娛樂場等に變り一人の農夫は一町一段程の土地を與へられて耕作してゐる。小麥裸麥牧草をつくるサポロジエ市はさうした農地の中心で製粉所や農具製造所や綿製造所又はベーコン製造所などが出来、人口十萬餘を算する、下流に佛國人が移住して葡萄をつくつてゐるところがある、こゝは河岸の砂地を開拓したもので、ウクライナ、シヤンパーニエといふ名の酒ができる。河口のヘルソンは海から百軒、河口より三十軒の右岸高地にある、地位形勝であるために大に發展しウクライナにての貿易港となつた、遂にはオデッサの位置を奪うであらうと考へられる農産物輸出港である。(F)